

長浜改革会議（第3回長浜市総合計画審議会）要点録

1 日 時 令和7年12月26日（金）9：45～11：50

2 開催場所 3階 特別会議室

3 出席者 ○委員

岩寄会長、林誠副会長、磯崎委員、清水委員、瀧澤委員、田中委員、
田邊委員、中川委員、細川委員、松井委員、弓場委員、吉田委員

○市出席者

浅見市長、未来創造部 和田本部長、為永次長

政策デザイン課 手崎課長、岸田課長代理、山崎係長、五十嵐主査

4 傍聴者 1名

5 次 第

(1) 開会

- ・定数の確認
- ・配布資料の確認

(2) 市長あいさつ

- ・「長浜市総合計画 基本構想（素案）」として整理した内容をお示しし、主に「めざすまちの姿」「まちづくりの基本的な政策の方向性」といった重要な点について、ご審議をお願いしたい。
- ・今回の素案をまとめるにあたっては、市民アンケートやワークショップ、若手職員による検討、さらには事業者の皆さまとの意見交換など、多様な声を聴き、まちの現状と未来への期待を丁寧に反映している。
- ・市民の皆さまに共感していただける計画とするためには、わかりやすさや伝わりやすさ、そして一緒に未来をつくるというビジョンの共有が欠かせず、また、総合計画は「策定して終わり」ではなく、市民・事業者・行政が協働し、日々の暮らしに変化を実感していただくことが重要であり、その観点でも、皆さまのご意見をぜひ賜りたい。
- ・長浜市の未来を方向づける極めて重要な審議となる。限られた時間ではあるが、率直なご提案や闊達なご議論をお願いする。

(3) 議 事

①総合計画基本構想（素案）について

【意見・質疑等】

●めざすまちの姿（案）、まちづくり政策の内容、成果指標・目標数値について

（委員）

- ・基本構想の「めざすまちの姿」の候補に「活力に満ちた風格のあるまち」という言葉を挙げているのはなぜなのか。

（事務局）

- ・これからの時代という観点でみると、若干弱いところはある。32年間にわたり使われてきた言葉で、長く市民に残っている要素からすると、昔のところにヒントがあるのではないかと考えている。最初が1978年、50年近く前であり、今の時代、これから先の時代にふさわしいかという点でいくと、委員が疑問に思われた部分も多々あるかと思う。構成などに市民へ伝わっていくヒントがあるのではないかという意図である。

（委員）

- ・7つの輝きの中に基本方針がそれぞれ3つずつあるが、この基本方針は、12年間固定という形になるのか、随時見直しの対象になるのか。その後のKPI的な指標についても策定後の見直しの柔軟性について、教えていただきたい。

（事務局）

- ・基本方針も含めて、基本は12年間固定で考えている。特にご指摘の指標の部分は12年間、基本的には固定しながら進めていきたい。ただし、昨今の社会の趨勢でも申しあげたとおり、時代の変革は非常に早く、12年という非常に長い時間のため、この基本構想の中で、指標が陳腐化してくる可能性も否定できないと思う。それが今後の行政の指標を測る中で、的確性を欠いてくる場合は、期間中であれ見直しの余地が全くないというものではない。

（委員）

- ・輝き5の文化でも指標を設定があり、「成人の年1回以上の社会教育・文化芸術活動への参加割合」は非常に具体的で、こういった活動を基準値で表していくのは良いと思う。社会教育や文化芸術活動は表現が曖昧になっているので、例えば、何か個人的に家で作って活動することも含まれるのか、長浜市の指標であるならば、長浜市のまちづくりセンターや文化ホールなどで開催されている講座やサークル活動だけなのか、市民意識調査を実施されると思うが、具体的で少し範囲を狭めた形で指標を取る方が長浜市の指標として良いのではないかと考えている。
- ・めざすまちの姿（案）は完全に個人的なセンスになるが、私はどれも何をめざしているのか、誰に向けているのかという部分がピンと来なかった。せっかく様々な輝きの指標が出てきた中で、多くのキーワードがあり、ただどれもまとめるというところで、抽象的にするのは良いと思うが、まとめ方がすごく曖昧である。漢字や漢語的な単語はすごく硬いし、直接的すぎてあまりイメージが広がらない。言葉を聞いて人それぞれがイメージを広げられるような単語が良いなと思う。特に子どもたち、若者たちというキーワードがすごく出てきたので、めざすまちの姿（案）の⑤・⑥・⑦はすごく分かりやすく、子どもにも理解しやすく、こういう未来だと良いなと読み解けるような言葉になっ

ているので、この方向性で作ってほしい。硬くてカッコいい言葉、「活力」とか「風格」とか良いと思うが、やはり子どもでも外国の方でも理解できるものにしていただきたい。具体的にイメージができるという意味では少し遠いと思う。めざす方向性のキーワードとして、集約だったり再編だったり、人口が減っていく中でどう長浜の方向性としていくのか。少し「まとめる」「寄り添っていく」というキーワードを入れていきたい。あとは「未来」という言葉も多く使うので、「想い」とかもわかりやすくよい。「未来」を例えば「あす」「あした」「夢」、そういう子どもでもわかる言葉にすることで長浜のメッセージが伝わるのではないかと思う。あと「つなぐ」とか「織りなす」という言葉がある。長浜市には伝統があり、伝統を入れたいと思うが、伝統を直接書くのではなく、伝統をメタファーというか、広がりのある言葉に変えていくということで、長浜の産業である糸をイメージして「紡ぐ」とか、「寄り添う」とか。糸は「よりあう」というイメージもあるし、一人ひとり弱い糸だけれども、よりあうことで強い糸になって、それがまた織りあうことで素晴らしい織物になる、というイメージ。「まとう」という言葉もある。パツと耳で聞いてイメージが広がる言葉が良いのではないか。「夢をまとう」とかイメージが広がる言葉を使ってほしい。「誰しものが」という言葉も入ると良いと思う。様々な方と出会う中で、取りこぼしてしまう人たちもたくさんいるので、そういう人たちを取りこぼさないというメッセージをしっかりと入れるのも必要かと思う。

(委員)

- ・人口がずっと減っていくのに目標値が、高いような気がする。めざすまちの姿として「いつからでも、いつまでも」という言葉はとても良い言葉だと思った。「いつからでも、いつまでも、いつでも、長浜に来ていただきたい」というのがすごくわかりやすく、めざすまちの姿(案)の⑤・⑥・⑦はすごくわかりやすい。①～④は本当に難しいと思った。

(委員)

- ・基本構想のめざすまちの姿として「いつからでも、いつまでも住みよいまち」がものすごく良いなということと、めざすまちの姿(案)の②-1「市民が日本一元気なまち」がものすごくわかりやすく、大きく出たなみたいに感じている。そして届きやすい。これと「いつからでも」があったら全部網羅できてしまう。あとは小さい目標が届きやすいと思った。一つ一つは素晴らしいと思った。少子化、人口減少に向かっていくことについて一番気になっているので、それを踏まえて作っていると説明を聞きながら安心したが、それをどう入れていったら良いのか。不安に寄り添うという形で、それも受け止める、というのがわかると良い。

(委員)

- ・めざすまちの姿は市民のイメージの共有だと思う。「活力に満ちた風格のあるまち」は、旧長浜市の方が曳山を見て「活力のある、風格のあるまちだな」というイメージが市民に共有されていたからこそ、長く愛されていた「めざすまちの姿」だったと思う。10年後の長浜市民はどういう姿をイメージとして共有しているのか。活力は無くなっていき、

風格を守るのが必死というような実状とともに、やはり現状と言葉のギャップに苛まれるのではないかと思う。あまり理想を高く掲げすぎるとシビックプライドも生まれにくい。等身大のあるべきイメージと自分たちの言葉が一致した時に、まさに活力と風格が生まれるのではないかと思う。「輝き」という言葉はかなり頻繁に出てくるので、市民のイメージとしては共有できる言葉ではないかと思う。ただ「織りなしハーモニーを生み出すことで新たな輝きを見出し」はすごくイメージがしづらいので、市民の関係の状態としての「輝き」とか、1年1年、この施策を進めていった時間の総和としての「輝き」というような表現が伝わると良いと考える。例えば、「今日が暮らしやすく次世代にわたせるまち」のようなもので、その輝きを時間としても関係としても織りなししていくことは良いと思った。避けたいのは暮らしにくい未来、これが良くないのは次世代にわたせないまちというふうに考えて逆張りすると、「暮らしやすく次世代にわたせるまち」みたいな要素があると良いと思う。まちづくりの1つ1つにどんな動詞があるかということ、主人公にする、誇りにする、交わる、切り開く、共鳴する、挑戦を続ける、どうしてもばらつきがあるので、先ほどあった、織る、よる、纏う、合う、縫うとか染めるとか、何か市民の一貫したイメージの中で動詞を入れるか、全部be動詞にするか、一貫性があると背骨が通って綺麗な「輝き」になると思った。

(委員)

- ・めざすまちの姿に過去のものはあまり子ども、若者というキーワードがなかった上で、今回、初めて子ども・若者を主人公にすることが明確に出ている。もっと子どもと若者が主人公であることが伝わる文言が良いと思った。それに関連すると、活力があるとか風格があるという硬い言葉よりも、未来につながる、今の子どもが活躍していくというようなワードがあると良いと思う。この短い中で、その辺りを伝える言葉を選ぶのは大変難しいことだと思うので、10何年後も形だけにならないワードを決める必要があると思う。計画のキーワードを見て、自分の生活にすごく反映されている、自分もこのキーワードに入っていると思ってもらえるのが一番大事だと思う。長浜市が大変なことを言っているだけではなくて、自分もこのキーワードがあったら自分の生活が入っているとか、自分も受け入れてもらっているようなことが一人ひとりに伝わる計画が良いと思う。そういう意味で「いつからでもいつまでも」とか、外から入って来られた方とか、長浜市にいないけれど長浜に関係している方とかでも長浜に対して疎外感を持つことがないようなワードを入れてほしい。

(委員)

- ・めざすまちの姿であるが、みんなに分かりやすい言葉というのがすごく大切と思っている。高校生の時に新聞部で見出しを考える際、ものすごくいろんな言葉を掘りながら考え続けると、自分の思いを伝えたいから難しい言葉になってしまった経験がある。相手はそれをパッと見てわかる言葉を求めていると思うので、その点から⑤～⑦の、誰でもわかりやすい本当に簡単な言葉で伝えられるものが良いと思った。
- ・輝き1のこども若者の指標、「長浜市はこどもまんなか社会の実現に向かっている」の

割合を指標にされているが、何を基準にしてこの割合を調査するのがこの言葉だけではわからない。例えば、基本方針「次代を担うこども若者たちの健やかな成長を包括的に支援する」を具体的に表す指標として、「子どもたちが成長できる公園数」など具体的にわかりやすい指標にしてはどうか。

(委員)

- ・基本構想の計画策定の経緯で、バックキャストによる計画策定をするということなので、まず、めざすまちの姿があって、その後の方針や指標があると思う。そういう意味で違和感があるのは、めざすまちの姿がまずあるということを考えて時に、どのような位置づけが良いのかと思った。10年先を見据えた社会の趨勢がどうなるのかを予測しながら、長浜市としてめざすまちの姿を考えると、社会の趨勢がこういうふうになっていくからという要素を、もう少し提案過程や根拠の中に織り交ぜながら、長浜市としてめざすまちの姿はこうあるべきではないか、というふうに結びつけていけると、バックキャストという手法でやっていくことと繋がりがでると思う。社会の趨勢は、現実的に人口減少という社会課題に向き合って、人口推計から2038年で、概ね9万8千、7千人という数字があって、最低、そこは維持しよう、というのが目標としても設定されていると思う。「いつからでも、いつまでも」は言葉としても持続可能をわかりやすく表現していると個人的には思う。「輝き」の1から7の中に優先順位があるのかはわからないが、子どもを主人公にしようというところが「輝き」の1にきているので、ここの指標はもう少し掘り下げて明確にしても良いのではないかなと思う。例えば、長浜で生まれた子が、今後大人になっていく上で、外に出る・残る・戻るというところも数値的にはとても大事で、子どもが、こう増えて、残るのかまた出ていくのかという、よそからくる子どものことも考えることが、この先10年に向けてめざす数字に反映されてくると良いと思う。
- ・「輝き」1から7まで全て関連していると思うが、子どもが将来、10年その先どう育っていくかという中で、長浜を良くしたい、長浜に残りたいと思えるような魅力ある産業、文化・歴史・自然、というような連関しているところが繋がっていくと良いと思う。
- ・行政経営の方針にこういうのがあればと思うのは、どこの行政もそうだと思うが、産業はこの課、文化はこの課というように、どうしても専門性なり行政の仕事上、組織を区分することは必要だと思うが、将来を見据えた時に、そこがうまく連携しななくなかなか不確実性のある世の中に対処していけないと思うので、行政機構上の連携は、避けて通れないくらい重要ではないかなと思う。行政経営という言葉を使うのであれば、行政構造の時代に対する適応の視点も入った方が良いと思った。

(委員)

- ・基本構想、一字一句繊細に作っておられて非常にわかりやすく感銘を受けた。基本構想の15ページ、輝き4の産業の「令和20(2038)年度の姿」で「地域産業の持続的な発展を力強く支えています」と書いてあるが、取組方針になると、「地域産業ではなくて、企業誘致や本社機能移転」、3行ほど下がるとまた「企業誘致の条件整備、外からの企

業を力強く誘致します」という内容になっており、今支えていただいている長浜市内の企業、産業の皆さまに対してはどう取り組むのかというのが少し薄い気がする。「令和20（2038）年度の姿」で「地域産業の持続的な発展、今支えていただいている地域産業を、持続的に発展させていきます」というようにしているのであれば、取組方針や基本方針においても、今長浜市を支えていただいている産業の皆さまに対する市と行政、私たちからの取組姿勢というのは、この方針の中に、明確に示される方が皆さまにご理解いただけるのではないかと思う。産業があって皆さまの生活があり、生活があって子どもたちが輝くので、そこをもう一度ご検討いただければと思う。

- ・基本構想については、これまでの意見に非常に同感である。3ページ目のひらがながいっぱい並んでいるものが、非常に気持ちが優しくなってわかりやすい。⑤の「いつからでも、いつまでも」という言葉に加えて、これからも、今支えていただいている皆さんの、「これから」、今までのご功績、これからも長浜は輝いていくという言葉も少し考えていただければという感想を受けた。あまり堅苦しい言葉ではなくて、小学生でも中学生でも、もちろん年配の方でも若い方でもみんなが響くような言葉を作っていただければ、非常に良いプランだと思うし、共感いただけるのではないかと思う。

（委員）

- ・めざすまちの姿としては、⑤の「いつからでも、いつまでも」が良いと思った。理由としては、わかりやすいこと、子どもが主役をめざすのであればということ、多様性というところで海外の人も多いと思うので、わかりやすくあって欲しいと思う。ただ、初めてシビックプライドという言葉聞いた時にわからなかったのを調べたが、とても良い言葉であり、大切なことだと思うので、サブテーマをつけてそこに少し難しくても良いから織り込むというのは大切だと思う。また、数値で日本一になるとワクワクするので、めざすまちは、みんながワクワクするのが一番良いと思った。7つの輝きで言われた成果指標についても、長浜だけのものなのか、日本の他の県と比べられるのか、はたまた世界と比べることも出来る目標なのか。そうであったら、それが達成された時に、比較対象があると、モチベーションも上がると思うので、そういったところをもう一回検討しても良いと思った。例えば、こども若者の、「長浜市はこどもまんなか社会の・・・」割合、例えば幸福度調査とか世界中でやっていると思うので、そういうのに変えたりするのも良いと思った。また、輝き7の進取の気性は、私も小学校に講演会に行くが、とても子どもは元気だし、先生方も元気である。市民の人との交流も150周年でいろいろ行くが、ほんとにすごいと思う。でも、子どもの頃はそれがすごいことだと子ども自身はわからず、一回外に出て戻った時に、すごいなと気づくと思う。そういうところの指標を入れても良いと思った。

（委員）

- ・まずは、順番から考えると、「めざすまちの姿」が一番わからないと思うが、ここに元々出ている①の「開かれたシビックプライドで“7つの輝き”が織りなすまちへ」は説明書の中の言葉としてはとても良いと思っている。行政の中で努力されることはとても

良いことだと思っている。11 ページに、長浜市が持つておられるイメージが説明されたものが載っているが、これをどういうふうに長浜市が捉えるのかは、もう少し議論された方が良いという気が前からしている。7つの輝きのポイントというのが長浜市の行政の施策になると思う。行政の施策は「めざすまちの姿」を現実にするための方法論であって、それをめざしているわけではない。図の真ん中に開かれたシビックプライドがあるが、全部の施策はそこに向かっていて、主体はそのシビックプライドにあると思う。人が主体になってそこに行政が、例えば今までは行政がいろんなハコモノをつくって、そこでこれをやりなさい的なことを行っていた。お金がある時はそうだったが、それはもうできなくなっているんで、皆さんが主体的に動いていただく、そこに行政がいろいろ出来ることを手助けしていく。今、議論をいろいろされているような、人が主体に行政が手助けをしたりして、そこで伝統を守ったりと、そこがやはり姿だと思うので、そこを切り分けたイメージの方が良いのではないかと。今はイメージが、方法論とめざすところが混ざっている気がする。そういう意味では、めざすまちの姿は市民主体でやっているところで、行政のサポートがあつたらこんな姿にまちが変えられますと。そこは行政側が何かやるってことではなく、市民のこれはやりたい、これはちょっと無理というのにポジティブに手助けしていくというふうに、めざすまちというのは考えられるという気がする。この中でどれというのはないが、今はどれも常に短しタスキに長しという感じがしている。政策の方がそういう意味ではとても大切で、長浜市がこれからやっていくところになると思うが、政策一つ一つの構造が少し理解できていない。取組方針というところで大枠の文章があつて、基本方針が大枠の文章の中で重点的にやっていきたい3つを選んでいると思う。我々も中期計画を立てるので、中期計画を立てると毎年自己点検をする。自己点検する時には各方針に対してどこまで達成できているか数値化する。それを考えると、方針に対して一つずつ目標が必要だと思うが、3つ基本方針があるのに、目標は2つセットと説明があつた。それが1つのセットだとするならば1つしかなくて、どの方針を評価しているかという対がない気がする。それはあまり良くないと思う。目標を大きく1つ立てるのであれば、基本も1つしかないのではという気がする。評価が出来ないという事でどういう関係になっているのかわかりにくいと思った。

- ・自分が関わっている教育に関して言うと、ここに書かれている文章は至極まっとうなことが書かれているが、これから先少子化になっていき、行政もお金がない状態になってくる事を考えると、ある程度雑駁な方針ではなく、補助金も考えながら方針を考えていかなければならないと思う。そういう意味では国の方針も頻繁に変わるので、12年と言われるとわからないが、この先長い間は、教育というのは初等教育の段階から理系転換させるという流れになっていて、大きな予算も同様に動いていくと思うので、補助金を念頭に置いた施策を考えて、ここに補助金を充てて、小中学校の構造改革ができるような施策を考えても良いのではないかと。

(委員)

- ・キャッチコピーの素案について、めざすまちの姿(案)の⑤～⑦がすごくシンプルでい

ろんな方に繋がるので良いと思った。また、こども若者の「主人公」というワードが良いと思う。地方ってどうしても教育や子育てでどうしようかなって悩まれる夫婦が多いと伺ったこともあるが、そういった方々に対しても、「若者が主人公で育てているまち」と伝えるとすごくシンプルにずっと入ってきて、まちの空気感やイメージが、ポジティブに伝わるので良いと思った。「主人公」というワードはキャッチーな感じもし、良いと思った。そういったキャッチーなワードを出すことも検討していても良いのかなと思った。

(委員)

・「めざすまちの姿」で掲げるものは、限りなく多くの市民と共有できるものであるべきと思っている。若い方、お子さん、多様な文化的バックグラウンドをお持ちの方でもわかるというところ、それが共有されればされるほど、長浜市が一丸となってめざせるものになるというのは共感するところである。それを踏まえた上で、令和 20 年度（2038 年）の計画、2027 年から 12 年の計画になりますが、長浜市が迎える大きな転換点は、人口が間違いなく 10 万人を切ってしまうという状況になることだと思う。努力はもちろんしていくが、日本全体の人口減少を考えるとおそらくそのタイミングが 12 年の間に訪れてしまうと思う。8 ページ目にあるが、2065 年には 6 万 4 千人という数字が載っている。長期的に見るとさらに人口減少が進む中で、この先 2027 年からの 12 年というのは、中間期にあるタイミングだと思う。そう考えると、行政だけでまちをつくる時代が日本全国終わりつつある中で、市民が一番元気や、みんなで育て、というようなキーワードや、元々長浜市が持っている、文化的特徴のみんなでまちをつくるというところが、長浜市全体の一つの大きなところだと思うと、最終的にどういう言葉になるかは事務局の方でもんでいただきたいが、市民が力を合わせてまちをつくっていくという、そういうまちになるということが、うまくこの 12 年の間に伝わっていけば、その後のさらに厳しい人口減少の時代も乗り越えることができるのではないかと思う。このまま、公のことは行政がやるという時代が長く続くと、人ごとのまちづくりになってしまう。どんどん産業も社会福祉も立ち行かなくなってしまう中で、みんなで力を合わせてまちをつくるという姿が、この先の 12 年で共有できるということがとても大事だと思う。もう一点、どこかに「次世代に残せるまち」ってキーワードもあったかと思うが、次世代に残すまちをみんなで作ろう、ということは意外と多くの方に共感してもらえるのではないかと思う。一方で利他という、人のために何かしようって言葉であるが、利他というピンとこないが、次世代に残すまちをみんなで作ろうって言われると、それは良いよね、それはぜひやろうよ、となる。次世代に残すまちをみんなで作ろうというニュアンスが、市民の皆さんに提示できると、結果として利他的なものにあふれるまちになると感じるところもあるので、そういったところをうまく盛り込めるものになると良い。共感を生むようなものを盛り込めるようなものになっていくと良いと思った。

●どのような表現や手法等で市民等に対して共感を得ていけば良いか

(委員)

- ・ たくさんの人に知っていただきたいし、せっかくこうやって皆さんとたくさん意見を述べながら作った案であるので、知っていただく方が必要である。子どもたちと学校で関わることも多いので、やはり子どもたちにわかる言葉というのもすごく大事ですし、基本構想の中身は本当に難しいので、できるだけ砕いた言葉に変換してあげるのが必要かなと思う。こういった言葉を小学生、中学生にもわかるように伝えられたら良いなというのが、すごくやりたいことだと思う。

(委員)

- ・ 11 ページの開かれたシビックプライドとか、こういうのをしっかりと学校等に掲示して、見たことあるよ、というのがわかりやすいと思う。市役所、各事業所、いろんなところにペーパーやポスターなどで常に掲示する方が、目に入ったらやはりわかるので、携帯で見るのではなく、ポスターとかで見る方がすごく良いと思う。

(委員)

- ・ 少し難しいと思っているが、私はけやきっこプロジェクトの恩恵を受けたので知っているが、どれくらい浸透したのかと思う。どういう伝え方をしたらどれくらい浸透していくのかというのをあまり知らなくて、浸透状況を知りたい。こども憲章は折に触れてティッシュとか配っていただいて、けっこう各々知っていたりすると思うが、どういう方法が伝わるのか結局よくわかっていないのであまり言えないが、例えば「こども主人公」だったら、子どもが3人寄って、何かチーム活動するなら補助金を出したり、そういう企画をやっていって、なんでこういう企画の補助金を長浜市が出すのかと言ったら、こういう「めざすまちの姿」があるからだ、みたいなことを少しずつ企画しながら、伝えていくのが良いのかなと思った。

(委員)

- ・ ストレートと変化球といくつか球種がないとダメだと思うが、ストレートだと、シビックプライド条例を制定している市町村があるので、まずは、政策面で動きやすい後押しをしっかりと、というのは剛速球かなというのと、市民が、自分がイメージできてワクワクするという言葉は何なのかな、というのが。もちろん「輝き」という言葉でもイメージできて、星の輝きとか、太陽の輝きがある。一人ひとりが星のように輝いていくような何かしらのイベントなり、デザインなりというのはいくつか考えうと思っているが、インクルージョンとか包摂って視点で見ると変化球も大切である。内発的動機に紐づいているんな人と関係を作って輝ける人ばかりではないので、やはり照らせる力とか、弱い光でもちゃんと可視化されて、みんなが真ん中に据えてもらえるような仕組みとか、光のデザインのような、しっかり変化球を作って、みんなが輝いて、「これって夜明けの空なんだな」というイメージが共有されると、未来に向けて夕暮れ感が無く、夜明け感があるとすごく良いイメージになる。時間をかけて、大小様々な輝きイベントであったり、照らすイベント活動だったりというのをいろんな形で後押ししてもらえると良いと考えている。

(委員)

- ・学校に掲示するとか、シビックプライドという言葉自体とか、輝きの言葉そのものが持っているイメージが良いので、その辺りを掲示して目につくところに置くのはすごく良いアイデアだと思う。コンテストとして学校ごとに企画して、それを長浜市内中学校に持ち寄ってイベントをする機会を提供されたり、私の祖父母を見ていて思うのが、自分の役割を探している人は一定多いと思うので、計画を実現する中で、自分が役に立っているとか、自分はこれができるという役割が明確になっている簡単なものがあると、自分はこのためにこれができる、役割を見つけたということにつながるので良いと思った。

(委員)

- ・学校での授業の一環としてこういった取組を教えるというのが良いと思っている。大学生だと自分が住んでいる長浜市が、どういうことをやっているのか知る機会が全くないので、そういう人たちにアプローチするにはどうしたら良いのかと考えた時に、大学生は駅を利用する人が結構多いので、各駅にこういったポスターを提示したりするのが一番良いと思った。

(委員)

- ・長浜市は市町村合併して、広域の行政エリアで、旧長浜だけではない、各地域の事情というのがあって思うので、その事情ごとの伝え方というのは非常に丁寧にした方が良いと思う。12年の間それでいこうと考えた時に、世の中の動きのスピードがとても早いので、今ここで考えていても数年後には全然違う社会環境がポツと現れて、技術も違うのが表れてって考えていると、その柔軟性というのは非常に大事なのではないかなと思う。そう考えた時に、この周知でこれが出来たと1回単発で終わるのではなくて、常に点検、見直し、継続で発信、対話という継続性という観点が非常に大事なのではないかなと思う。

(委員)

- ・子どもたちへというところをまずは考えた。お恥ずかしい参考事例を一つ述べると、SDGs が世界的に叫ばれた当初、私が面接をした学生が、SDGs を熱く掘り下げて発表された。私の方がまだまだ勉強不足でまだ始まったばかりで SDGs ってなんだろうと思っている段階で、学生が先に勉強して私たちに発表してくれたという経験があった。若い方々の吸収力の素晴らしさ、就労している日々の数字、あるいは生活に追われている私たちより、彼ら彼女らに教わることが今でもたくさんあるので、小学生、中学生、並びに年配の方々、デイサービスご利用の方々にも、シビックプライドってこうなんですというのを広くやっていくと、私たち就労している人間の下から上から来るというような感覚を受けた。滋賀県には「うみのこ」がある。滋賀県の誇り、というふうに長浜の誇り、シビックプライドという言葉がみんなでも共通できるような環境が作れたらなと感じる。過去に「博物館都市構想」という言葉があった。私もまだ覚えている、非常に心に刺さる言葉があったが、そんな基本構想になればと考えている。

(委員)

- ・世代間で全然違うと思うので、世代に分けて子どもなら SNS なのかテレビなのか、ぼて

じゃこなのか、そういうところは全部網羅できると良いと思うし、先月あったイベントで車いすバスケットを試乗させてもらい、いろいろお世話になったが、Bリーグと比べると、いつも大会を開催すると観客が少ない。でも、今回はとても多く満席だった。どういう方が来たのかなというのを振り返ると、意外とテレビ、びわこ放送やZTVなどを見られていたり、YouTubeのCMで何回も何回もされると、気になって調べたりというのがあったので、きっとそういう成功例とか、他にも長浜市ならではのものもあると思うので、そういう方々に聞いてみたりして、いろんな所にアプローチするのも良いのかなと思う。あとオーディション番組って結構見たりするのではないかな。オーディションで途中経過を見て、それが出るとやっぱり応援したくなるので、作りかけのところを少しずつ出していって、みんなで作り上げる、市民も巻き添えにするというのができると、主体性が付くのではないかなと思った。

(委員)

- ・市内、市民の皆様にはアプローチすると考えると、ここの施策は、一部は外の方を中に取り込みたいということもあるので、市外の人にもメッセージが届く何か、例えばインターネットを通して良いし、電車の広告とか、費用対効果が良いものと考えられて、出来れば県内、関西エリアにこんな良い所があるとアピールができると思う。時々YouTubeを見るが、YouTubeにも結構自治体の、子育てこんなに皆さんハッピーにやっていますみたいな宣伝が出たりする。こんなところがあると理解できるというのはとても重要かなと思うので、外側にも向けて発信できる可能性があれば考えていただければと思った。

(委員)

- ・伝えて、興味を持ってもっと知りたいと思った人たちが調べた時に、ちゃんと辿り着ける受け皿をしっかりと作ってあげる必要があると思っている。例えばSNSであったりウェブサイトであったり。ウェブサイトサイトが広く周知するには良いと思うが、そういった受け皿をしっかりと用意してあげて、受け皿に今までの経緯であったり、7つのシビックプライド、今こんな目標掲げていると言うようなところを掲示してあげると良いと思う。また少しその先の話になるが、それぞれ立てた目標に応じて、コンテンツであったり、企画であったり具体的に何をしているというところを合わせて示してあげると、よりほんとにまちがそれをめざして行動しているみたいなことがしっかり示せると思うので、受け皿を整えてアプローチしていくのが良いと思う。

(委員)

- ・先ほど学校に掲示をすとかポスターとか話があったが、意外とこれが力強いと思ったちょっとしたエピソードをご紹介します。何10年ぶりに、高月中学校の後輩と会った。それで話題が上がったのが、高月町だけだと思うが、ヤンマーの創業者の山岡孫吉さんの言葉が高月町内の4つの小学校に石碑みたいな形で掲げられている。そこには「美しき世界は感謝の心から」という山岡氏の言葉があるが、それを私も小学校6年間ずっと見て覚えていたし、その人もずっと覚えていて、あの言葉が今になってよくわかるみたい

な話をして盛り上がった。小学校とか中学校に掲げられている言葉の力というのは改めて大きいと感じた。

- ・あと前回の総合計画で作成した、「長浜本」というその時のコミュニケーションツールがある。皆さんの資料集の中に入っている黄色い表紙の冊子のコピーがある。ここから学べる事がいくつかあると思う。総合計画は、非常に重要な計画なので、要素が多く複雑な部分もある。どうしても言葉だとか概念が複雑になってしまうということがあると思う。この「長浜本」も同じような特徴になっていて、いろんな事が網羅的に格納されているが、なかなか市民に残った言葉があるのかというのがあり、この中で非常に効果的だったと思うのが、「チャレンジ・アンド・クリエイション」。当時はキャッチフレーズということで、総合計画の中で策定されていたものであるが、今回総合計画ではキャッチフレーズの位置づけがない。もし可能であればコミュニケーションの際に、こうしたキャッチフレーズ的なものを、「チャレンジ・アンド・クリエイション」はCとCで、ある意味、韻を踏んでいる言葉になっていて、頭に残りやすいという効果もあるが、これだけですべてを負わせるものはなかなか辛いところもあるので、上手くコミュニケーションのツールとして、キャッチフレーズ的なコピーを想定するのもありだと思った。
- ・皆さんのご発言を伺っていて、行動に結びつくというか市民一人ひとりの方が掲げられているものに対して、自分に何ができるのかとその回路を作ること、けっこう重要なことかなと思う。コミュニケーションというのは書かれていることが伝わるまでがコミュニケーションの役割であるが、前回総合計画では「チャレンジ・アンド・クリエイション」という言葉が伝わっていると、知っている、認知度があるってことであるが、もう一つのタイミングでおそらくできると良いかなと先ほどご意見を伺って思ったのが、これから策定して例えばシビックプライドと言われた時に、それに対して自分には何ができるのだろうかということが想定されて、実際に、10万人、11万人の市民一人ひとりの行動がそれに紐づくということがすごく大事だと思った。また、外に向けて発信されるということもすごく興味深いご意見だなと伺っており、通常こういった総合計画の言葉というのは市の中に閉じてしまうものではあると思うが、これから関係人口をより市の外に広げていこうとか、移住定住をもっとどんどん推進していこうと考えたら、この言葉が長浜市の外に出て行って、外の方にも共感されて、将来的な長浜市民になっていただくという回路も十分に考えうる。しかもそれが広がって考えると、長浜市が掲げるものの独自性とかユニークさみたいなものにつながっていくのではないかなと思う。
- ・よく知られた例であるが、千葉県にある流山市が、20年近く前から子育て真ん中主義を唱え、子育てブランディングが進んで、結果として移住者がすごく増えたという、ある種の行政経営の一つの成功例だと思うが、当時は子育て真ん中を掲げた自治体は少なく、独自性が非常にあって、それを何10年も継続されたということに流山市の強さがあると思う。また面白いのがハロー効果とマーケティングの専門用語で言うが、外から「いいね」と言われると、中の人もよく感じる。別名、黒船効果とも言われる。例えば日本は長寿企業が世界一多いと言われると、え、そうなん？となって、日本企業はけっ

こう良いよねとなるような、外国から何か言われると、良いよねと思ってしまうような効果があるが、それは長浜市の外と中でもおそらく言えることで、外から長浜市の総合計画の方向性良いよね、ビジョン良いよねと言ってもらえると、長浜市民が逆にシビックプライドを感じる効果もあると思った。

(委員)

- ・ こういう委員会に呼んでいただく経験は市民にとっては市施策を考える機会になっていて、おそらく委員に選ばれている皆さんでも普段から考えていて、選ばれている方もいれば、選ばれて考え出した方もいるのでは。この巻き込みというのが、この2年だけで、次は次に作るまで開催されないというのはもったいないと思っていて、やはり継続的に大小さまざまな人の集まる場が全て次の総合計画に繋がっていくものだという建付けで、常に対話を続けると次世代にわたすまちづくりはできないみたいなコンセプトで、先ほど PDCA を回し続ける話もあったし、途中経過に巻き込んでこそ自分が参加する気持ちになるので、例えば、今日、基本構想のめざすまちの姿として①から⑦まで出たが、どうやら ⑤と⑦に人気が集まったみたいな途中経過も報告すると、みんなが関心を寄せて、その結果どうまとめるんだ、大変だぞ、みたいな関心層がいろいろ、ご意見くれたりとかもある。やはり途中経過を常に発信しながら、いろんな人の集まる場が全て次の総合計画を作る委員会なんだ、みたいな形で、これを2年間で作ったみたいにならないようにすると良いとすごく思った。

(委員)

- ・ ビジョンで掲げた言葉について、どういう言葉になるのかわからないが、そういったものと市民が触れられるイベントをセットにする、例えば子ども真ん中マルシェとか、シビックプライドスポーツ大会とか、セットにすることによって、その言葉が、皆さんが参加できるイベントを通じて広がっていく、そういう仕組みもできると思った。

②第4期長浜市定住自立圏共生ビジョン（案）について

【意見・質疑等】

(委員)

- ・ 圏域マネジメントの「圏域」の定義は。

(事務局)

- ・ 圏域には、定住自立圏のビジョンの範囲があり、基本的にはこの定住自立圏構想、市町村合併と合わせて、主には合併しなかった市町村を対象に設けられた総務省の制度である。基本的には近隣の市町と連携して、一体的な生活圏として施設等や事業を行う場合に合併に類するものという名目で、交付税措置がある。彦根圏域、湖東圏域であり、彦根市と周辺の自治体がここに該当する。実は長浜市、東近江市はこの中の特例事項で、合併一市型というものになる。合併一市の圏域の中で、中心地と周辺地域に分かれるが、中心地が長浜市、旧長浜市、旧浅井町、旧びわ町、この3つが合併し、中心地域に該当する。そして平成22年から市町合併し6町区域が周辺地域と位置付けており、いわゆる

現行、長浜市と同じ区域となる。

(委員)

- ・資源節約に対応する圏域マネジメントというところが、長浜市公共施設等総合管理計画を見ると、どういうふうなマネジメントするかであるので、もちろんインフラ整備としては面積を減らしていく、出来るだけ市の管理を減らしていく方針はすごく大事だと思っ
てはいるが、一方で減らすだけでなくつくるとうまくいくみたいなのところも併せて投資が
できると、この予算も活用できると思っている。何かそういう減らすだけではなくて、つくる
側のマネジメントの議論、方向性はどうなっているのか。

(事務局)

- ・公共施設等総合管理計画、いわゆる分野別計画に当たる所で既に策定されて、市の保有
する公共施設の総面積を減らしていくのが指標となっている。元々9つの自治体が一つ
になっているという背景もあり、元々1市でやった区域で考えるとオーバースペック、
数的にも面積、機能的にも多くなっているというところである。実際、市町村合併後か
ら15年が経つが、一部集約されている施設もある。特に学校関係を中心に集約されてい
るところもあるが、まだまだ集約されない分野もあるところである。基本的には減らす
ということもあるが、まずは機能を集約するというところが一つ大事であるので、機能
集約過程の中で、既存の施設を利用するのか、あるいは別のところに機能を求めていく
のか、これは個別の施策分野において検討される事項になろうかと思う。どちらかとい
えば、一方的に施設が減らされてしまうというイメージが先行しがちではあるが、人口
減少、利用者自体が減ってくるというところを踏まえながら、市としてそれぞれの機能
における公共施設等がどういう配置、どういった数が最適化というのを将来的に見据え
て、本ビジョンは5か年計画ではあるが、この5年間でどう進めていくかという観点で
あるので、今ご指摘いただいたところも全く視野には入っていないというわけではない。
公共建築物の面積をご報告させていただいているというところである。

(委員)

- ・この公共施設の集約の範囲の中に、今後小学校の廃校もかなり進むと思うが、これに含
まれるのか。

(事務局)

- ・含まれている。

(委員)

- ・子どもたち、親が、せっかく長浜で山とか、ほんとなら田舎の人手が足りないところで、
経験をする場所があると思っ
ていて、そちらで預けて経験をさせたいのならいろ
んな経験をさせたい。例えば林業、チェーンソーを使わせてみたいとか。私もチェン
ソーに興味があって、チラシを見たが、わかっている人しか参加できない。せっかく長
浜にいるから生きる力、本当の意味での生きる力が育ってほしいと思っている。結局、
手を動かせるようになるのが一番早道だと。自信もつく。そこに行ったら木も触れるし
湖にも行ける。自分たちの家もつくれる。そういう土壌はあると思う。先輩たちもまだ

まだ思っておられる。田舎ってというのはそういうところがあって、畑もあって、そういうのにどんどん子どもが関わって行けるようなビジョンがあったら良いと思った。

(事務局)

- ・今のところは公共施設のところでおっしゃっていただいたが、おそらく事業としては、政策骨子案のところだと、生活機能の強化、黄色い部分のところである。「エ 産業振興」の「(オ) 農林水産業の振興及び地場産品の流通拡大」で個別事業にも該当してくると思う。今施設と絡めて言うと、それ専用で施設をつくるというよりかは、既存の施設にそういった機能を求める、今一か所でやっていることを、例えば市内の複数個所で、あるいは参加できる人数、受け皿がもっと確保できるような施設などを利用していくというようなことを考えていけるかと思う。せっかくの長浜市ならではの身近に体験できるのが強みでもあろうかと思うので、そういったところも、この事業で行くと、総事業費43億円あまりのところの交付税措置としては1億円弱というところで財源的には限られてくるが、こういったものを活用して、今おっしゃっていただいたような事業が充実できるように、これは総合計画とも関連するが「輝き」にぶら下がってくる施策を考える上でも活かしていきたいと思う。

(委員)

- ・第3期の予算、事業費が、以前どれくらいで行われていたのか、第4期の案の中には記載がない。今、第3期の資料を照らし合わせながら見ているので、わかりやすく、第3期はこれくらいの活動費があり、第4期にはこうなるというのが合わせて載っているとより親切かと思った。

(事務局)

- ・次回から提供させていただく時には工夫をさせていただきたいと思う。

(委員)

- ・グループホームの整備が令和10年に1つということであるが、長浜市内では高齢者の施設はどんどん整備されてきて、サービス付きや有料の老人ホームはどんどん増えてきているという現状を感じる。障がいの方も以前は自立して共同生活ということでグループホームに勧めたが、最近は医療も充実して、障がい者の方の高齢化、看取りまで支える、そうなってくると、障がいのグループホームで対応できない事例もあって、この時代にグループホームが必要なかどうかは検討されたのかと疑問に思った。高齢者施設は増えている、グループホームは高齢化対応できなくなっている、でも障がいのグループホームをつくる。なぜ?というのが気になった。

(事務局)

- ・そういった視点について、庁内関係各所と調整した上で進めている。令和10年度とここに書いてある通り数字が出ているが、しょうがい福祉の担当のところでは整備を予定しているという部分で挙げさせていただいている。それが的確かは、今年度判断が必要かと思うが、このビジョンの位置づけとしては、今後5年間で発生が予想できる該当事業については漏れなく記載させていただく方針である。他の事業にもかかわってくるが、記

載した事業は必ず 5 年以内に全て実施するののかというのは今ご指摘いただいたことも踏まえて、事業そのものの見直しというのが全くないわけではない。ただ、ここに記載がないと、財源措置が後から追加というのがなかなか難しいところもあり、発生しうる事業についてはなるべく幅広く記載しているという趣旨である。

(委員)

- ・ 公共施設の集約化・共同利用の案件であるが、小学校の廃校の件を申しあげたが、かなり具体的に進んでいくと思っている。もちろん市として公共施設を維持管理するのは行政コストがかかるというのは前提だと思うが、一方で小学校というのは明治の学制によって制定されて、最も学校としての歴史が長いのが小学校だと思う。昨今、長浜市内でも 150 周年を祝っている小学校があると思うが、明治の近代国家ができてすぐに出来たところからの歴史を持つものだと思っている。人口減少をして、そこにいる小学生が例えば 100 人にも満たない小学校が出てきている中で、小学校としての機能を維持するかどうかは議論があると思うが、一方である種の公共空間、パブリックスペースとしての役割も小学校は持っていると思う。その役割を、人口減少で小学生がいないという理由でなくしてしまって良いのかというのは大きな議論があるべきだと思う。違う形での用途転用をすとか、あるいは長浜市全体で、いわゆる公民館、まちづくりセンターが、長浜市の全体でいうと南部、特に市街地周辺、人口集積もある程度あると思う。浅井とかもそうだが、例えば高月、木之本、余呉辺りはそうだと思うが、旧小学校区、小学校区内にまちづくりセンターがあるケースと、町で 1 つしかないケースが、少しばらつきがある傾向だと思っていて、廃校になる小学校がまちづくりセンター的な機能を持って、地域の方がそこを公共的に利用することができる。もちろん行政コストは下げながらそれを維持していくということは必要だと思うが、何かそこで知恵を絞ることができないか、日々感じることではあるので、ご検討いただきたいと思う。

(委員)

- ・ 13 ページの「けやきっ子プロジェクト」の読書の取組で、成果指標が現状 100%で目標 100%とこれは配布をされているだけだと思う。読書離れは小学校でかなり進んでいると先生から聞く。本を読むことによって分析能力とか、思考力とか、今後の学習能力にも関わってくるため、とても大切だと私自身思っているので、指標をもう少し具体的に進めても良いと思った。

議事終了、会議進行事務局へ

(4) その他

- ・ 第 4 回審議会の開催日報告

令和 8 年 4 月 24 日 (金) 13:45~16:00

- ・ 本会議の要点録を市ホームページに公開する。

(5) 閉 会

以上